



No.110

さいばい ニュース

公益財団法人
神奈川県栽培漁業協会

発行所 〒238-0237
神奈川県三浦市三崎町
城ヶ島養老子
☎046(882)6980
FAX046(881)2233

令和2年度 事業計画

水産資源の維持・増大を目指して 種苗生産・放流・配布に取り組み

マダイ・クロダイ種苗中間育成を陸上実施へ

基本方針

当協会は昭和六十一年に「栽培漁業に関する事業を行うことにより、水産資源の維持増大を図り、漁業の振興と県民生活の向上に寄与する。」ことを目的に設立され、今年で三十四年目を迎えることとなりました。

今年度はマダイ、アワビ、サザエ、トコブシ種苗の生産を行い、東京湾並びに相模湾への放流、漁業協同組合を始めとする水産団体への供給を行います。更に、業界の強い要望であるヒラメなどの種苗を入手し放流します。

また、今年度より小網代湾内で実施していたマ



種苗放流に参加する海の教室参加児童

新型コロナウイルス感染症が令和二年三月から日本国内、全世界に蔓延し、非常事態宣言が発出されたため、令和二年年度の予算は、三月五日の令和元年度第三回理事会で書面評決により、議決されました。令和元年度の業務報告書を五月十三日の令和二年第一回理事会、五月二十九日の令和二年第一回理事会、六月十二日の令和二年第一回評議員会のいずれも書面評決で承認を得ました。

「こと」を目的に設立され、今年度三十四年目を迎えることとなりました。

今年度はマダイ、アワビ、サザエ、トコブシ種苗の生産を行い、東京湾並びに相模湾への放流、漁業協同組合を始めとする水産団体への供給を行います。更に、業界の強い要望であるヒラメなどの種苗を入手し放流します。

また、今年度より小網代湾内で実施していたマ

一方、種苗供給数も不安定ながら県内県外の関係団体等の協力をいただき各種苗の増産を図る努力をします。特に安定したサザエ種苗及びトコブシ種苗の県外水産関係団体等に積極的に配布していきます。

また、事業の執行については、経費の見直しを行い、効率的な協会運営に努めます。

書面評決で理事、評議員決める

新型コロナウイルス感染症が令和二年三月から日本国内、全世界に蔓延し、非常事態宣言が発出されたため、令和二年年度の予算は、三月五日の令和元年度第三回理事会で書面評決により、議決されました。令和元年度の業務報告書を五月十三日の令和二年第一回理事会、五月二十九日の令和二年第一回理事会、六月十二日の令和二年第一回評議員会のいずれも書面評決で承認を得ました。

平成2年度 事業内容

(1) 種苗放流事業

本年度もマダイとヒラメの種苗放流を行います。マダイの種苗生産数は五十万尾です。このうち放流数は十五万尾です。ヒラメの放流は六万尾です。

(1) マダイ種苗放流事業

ア. 放流尾数	(全長60mm)	150,000尾
イ. 放流場所	東京湾域	50,000尾
	三浦半島西岸域	50,000尾
	西湖域	50,000尾

(2) ヒラメ種苗放流事業

ア. 放流尾数	(全長60mm)	60,000尾
イ. 放流場所	東京湾域	20,000尾
	三浦半島西岸域	20,000尾
	西湖域	20,000尾

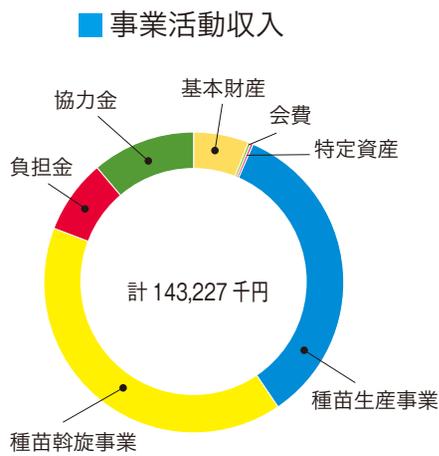
(2) 普及啓発事業

① PR推進事業

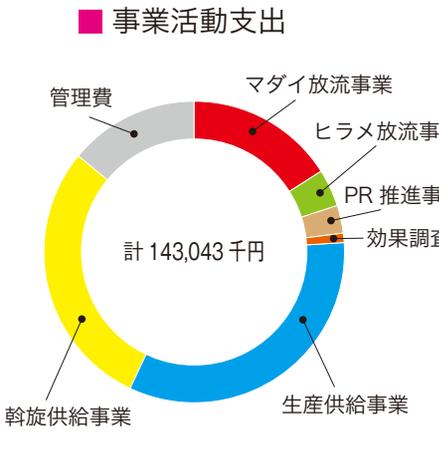
「さいばいニュース」(二千部/回、年二回)を作成し県内の漁業協同組合、水産団体、遊漁団体、教育及び公共機関等

令和2年度予算

事業活動収入	千円	割合(%)
基本財産	8,726	6
特定資産	260	0
会費	1,000	1
種苗生産事業	49,005	34
種苗斡旋事業	57,585	40
負担金	10,875	8
協力金	15,526	11
雑収入	250	0
計	143,227	100



事業活動支出	千円	割合(%)
マダイ放流事業	23,527	16
ヒラメ放流事業	5,348	4
PR推進事業	4,377	3
効果調査	1,895	1
生産供給事業	46,505	33
斡旋供給事業	41,884	29
管理費	19,507	14
計	143,043	100



へ配布し当協会の広報活動を実施します。

② イベント推進事業
各地で開催される地域イベント等に参加し、漁業者はもとより、広く一般県民に対し水産資源の保護、海洋環境の保全を強く訴え、栽培漁業の普及啓発を行います。

③ 調査事業
① マダイ遊漁標本船調査
県内マダイ遊漁船の中から、川崎市から湯河原町までのマダイ遊漁船に標本船調査を実施します。(標本船十二隻)
(なお各種苗の生産・放流・事業計画・表は二面に掲載しています)

公益財団法人 神奈川県栽培漁業協会 役員改選

公益財団法人神奈川県栽培漁業協会 役員名簿

役職名	氏名	所属
理事長	高橋 征人	神奈川県漁業協同組合連合会長
専務理事	今井 利為	(公財)神奈川県栽培漁業協会
理事	武井 正	(公財)相模湾水産振興事業団理事長
理事	黒川 忠雄	神奈川県釣船業協同組合前理事長
理事	久保寺 弘	横浜市漁業協同組合副組合長
理事	飛松 正幸	横須賀市東部漁業協同組合長
理事	山田 正行	みうら漁業協同組合副組合長
理事	葉山 一郎	藤沢市漁業協同組合長
理事	徳江 好春	大磯二宮漁業協同組合前副組合長
監事	船澤 良二	神奈川県看護連盟事務局長
監事	関沢 孝	(一財)東京湾南部水産振興事業団専務理事

新理事長に高橋征人漁連会長が

今年度協会は、役員改選の年です。高橋漁連会長が新理事長に決まり、維持するには有益な栽培漁業を発展させる種苗放

「当協会は近年、厳しい

「流事業が必要ですが、是非、県民、漁業者、遊漁案内業者等のご理解と多大なるご支援をよろしくお願い致します」と話

(4) 種苗生産・供給事業

①生産供給
アワビ、サザエ、トコブシ、マダイ種苗を生産し、漁業協同組合を漁協をはじめとする水産団体へ供給します。

特に、サザエ種苗を安定生産し、県外関係機関等に供給できるように取り組みます。

②幹旋供給

ヒラメ、カサゴ、メバル、トラフグなどの種苗を入手し漁業協同組合をはじめとする水産団体等へ供給します。

昨年度は、サザエ種苗の生産が不調でした。しかし、今年度は順調に生産・供給できるものと期待しています。

Table with 4 columns: 事業名, 種苗名(サイズ), 2年度(計画), 元年度(実績). Rows include 生産供給 and 幹旋供給 with various fish species and quantities.

*養殖用種苗

一栽培協会事業の柱一
種苗供給事業でヒラメ種苗放流



公益財団法人である当協会の事業の柱の一つが種苗供給事業です。今年度もすでに種苗供給事業に取り組んでいますが、六月十八日、小田原市漁協地先で五千尾の供給ヒラメ種苗が放流されました。

貸借対照表

貸借対照表とは企業の財政状態を客観的に把握することができる経営上の欠かせないものです。貸借対照表には資産と負債の項目があり法人が資金をどのように運用しているかを確認する表です。

資産の部では、資産合計は令和二年三月三十一日付けで七億二千三百五十五万九千五百八円でした。平成三十年と比較すると三千五百九十七万九千九百九十二円減少しました。

これは、平成二十四年度に基本財産から特定資産に移動した一億五千万円をアワビ種苗の生産不調、退職金不足の補充、魚類種苗の販売数の減少の累積、補助金等がゼロで五千万円で補ったためです。

負債の部では、短期借入金が四千万円あります。年度当初の四月から八月までは収入がほとんどなく、一方、マダイ種苗生産経費や電気料や賃金などの固定経費が必要なため、特定資産を担保にして金融機関から借入をし、また、平成三十一年三月三十一日で退職者がありその未払金があったためです。

借合計は六千九万三千五百円、平成三十年から千七百七十七万五千三百六円の減でした。

正味財産合計は六億六千三百四十六万六千五百三十三円で負債及び正味財産

合計は七億二千三百五十五万九千五百八円でした。平成三十年から三千五百九十九万九千九百九十二円の減でした。
以上のように、神奈川県栽培漁業協会の経営は、近年、経常収支の赤字を続けています。
種苗放流事業で完全な受益者負担をしている県は全国で神奈川県だけです。一旦、海へ放流した魚介類は民法上、無主物です。放流したお金を負担した人・団体と受益者の関係が不明確な関係で、完全な受益者負担には無理があります。
放流魚が神奈川県沿岸から移動し、資源の管理での再生産に必要な親資

源を確保するには、公共性があられるべき事業であると思いませんか。
また、不特定多数の受益に対応するのが公益財団法人で、特定の受益者が受益する共同漁業権種の貝類は、受益者負担制度が妥当ですが、不特定な受益者がいる魚類については、税金の投入が必要

もし完全な受益者負担制度で放流事業を続けていくには、神奈川県栽培漁業協会の持続的な事業を続けていくことが困難となります。
皆様のご支援とご協力をお願いします。

令和2年3月30日

貸借対照表 Table with 5 columns: 資産の部, 負債の部, 正味財産の部, 令和元年度, 平成30年度, 増減. Rows include 流動資産, 固定資産, 負債, 正味財産 etc.

令和元年度決算報告

正味財産増減計算書

令和元年度の事業活動収入は、一億三千九百二十七万七千円、事業活動支出は一億五千四百九十九万円で、経常増減額は、マイナス千七百四十一万一千三百八十八円でした。

マイナスの要因は、アワビとサザエの種苗生産不調と磯焼けのためこれら貝類の販売が大きく落ち込んだためです。また、太平洋南海域栽培漁業推進協議会のヒラメ事業費とマコガレイ[EBC]照射実験費が終了したこと

もよります。さらに、漁業者負担金や協力が漁業者や遊漁案内業者の減少があり、案内業者の減少が、減額しました。
経常費用の事業費で期首棚卸資産二千五十二万八千三百六十六円を令和元年度で落としました。これは、公益財団法人である当協会は、法人税が減免されるので、期首棚卸資産を計上する必要がなかったためです。

十六万四千六百五十五円の減であり、当期指定正味財産増減額は百三十四万円の減になりました。
運営については昨年度と比較すると事業費は約二千八百万円、管理費も約七百八十万円の削減をしましたが、先に述べた要因と過去の累積による資金の不足により、特定資産の経営安定化資金三千二百万円を取り崩しました。

正味財産の期末残高は六億三千三百四十六万六千五百三十三円でした。

※詳しくは当栽培漁業協会のホームページの法人概要、業務会計報告をご覧ください。

令和元年度決算 正味財産増減計算書抜粋

Table with 4 columns: 事業活動収入, 令和元年度(千円), 平成30年度(千円), 増減. Rows include 基本財産, 特定資産, 会費, 種苗生産事業, etc.

Table with 4 columns: 事業活動支出, 令和元年度(千円), 平成30年度(千円), 増減(千円). Rows include 事業費, 期首棚卸資産, 管理費, etc.

Table with 4 columns: 経常外増減, 令和元年度(千円), 平成30年度(千円), 増減(千円). Rows include 什器備品除却損, 当期一般正味財産増減額, etc.

マダイとアワビの 種苗生産技術の 改善



ラインシユリンブのプラ
ンクトンに投餌します。
その際、栄養を強化する
ためEPA(エイコサペ
ンタエン酸)とDHA(ド
コサヘキサエン酸)の不
飽和脂肪酸をこの餌のプ
ランクトンに食べさせ、
マダイ仔魚に摂らせませ
う。この不飽和脂肪酸の油
膜がマダイ飼育池の水面
を覆うことになりま
す。

マダイ仔魚は、飼育池
水面から空気を吸って初
期にシオミズツボムシと
ブ
ライシユリンブのプラ
ンクトンに投餌します。
その際、栄養を強化する
ためEPA(エイコサペ
ンタエン酸)とDHA(ド
コサヘキサエン酸)の不
飽和脂肪酸をこの餌のプ
ランクトンに食べさせ、
マダイ仔魚に摂らせませ
う。この不飽和脂肪酸の油
膜がマダイ飼育池の水面
を覆うことになりま
す。



LED照明で電気代節約



波板で育つアワビ稚貝



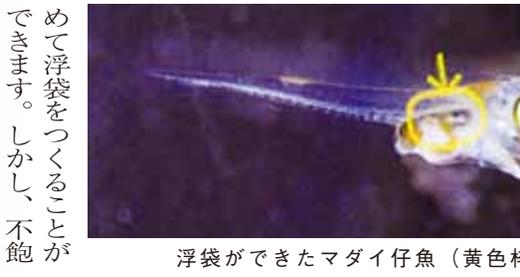
遮光幕が効果

切とのアドバースをいた
だきました。
従来の当協会の遮光方
法では、太陽光が遮光幕
の横から入り明るすぎる
ことが分り、アワビ飼
育池の上、高さ2mに遮
光幕を張ってアワビ稚貝
の餌である珪藻の培養
管理をしてみました。
しかし、波板飼育をほじ
めて一月ほど経つと珪
藻が枯れたり、アワビ稚
貝に不適な珪藻が増え
、アオサなどの緑藻が
飼育池水面を覆ってアワ
ビ稚貝の餌がなくなつて
安定した生産ができな
い状況でした。
昨年、三重県尾鷲栽培
漁業センターを見学し、
珪藻の培養に必要な光の
照度は二千ルクスが適
当であると、アワビ飼
育池の上、高さ2mに遮
光幕を張ってアワビ稚貝
の餌である珪藻の培養
管理をしてみました。
しかし、波板飼育をほじ
めて一月ほど経つと珪
藻が枯れたり、アワビ稚
貝に不適な珪藻が増え
、アオサなどの緑藻が
飼育池水面を覆ってアワ
ビ稚貝の餌がなくなつて
安定した生産ができな
い状況でした。

このことから、この油
膜をキャッチする装置を
設置しました。基本的
には凹字形のプラスチック
パイプの入り口に内側に
向かってエアシヤワー
を吹き付けて凹部分の奥
に油を集めるものです。
集めた油を丁寧に掬い、
取り除く根気のいる作業
です。

この池は通称「大池」
と呼ばれ、マダイを千尾
単位で飼育してました。
関東でこれほどの数の
マダイが見られる所は千
葉県の日蓮上人が生まれ
たとされる誕生寺がある
小湊湾ぐらいでしょう。
この大池のマダイは五
月の連休前から自然産卵
をします。そこで、こ
の卵を用いて、昭和四十
四年度からマダイの種
苗生産研究が始まりました。
夕方、マダイが産卵し
た後を手漕ぎボートで大
池に浮かべて、手だも
卵を掬い取り、受精卵を
集めていました。

マダイの種苗生産では、
何割かの個体に奇形が生
じ、その解決方法を求め
られています。種苗の中
には、短軀症といって脊
椎骨が正常な個体より少
なく、屈曲する個体があ
ります。
この原因として、卵か
ら孵化後十日前後までに
正常な浮袋が形成する
どうかにかかっています。
仔魚の飼育にあつては、
シオミズツボムシとブ



浮袋ができたマダイ仔魚 (黄色枠)

このことから、この油
膜をキャッチする装置を
設置しました。基本的
には凹字形のプラスチック
パイプの入り口に内側に
向かってエアシヤワー
を吹き付けて凹部分の奥
に油を集めるものです。
集めた油を丁寧に掬い、
取り除く根気のいる作業
です。

この方法でかなりの数
の正常なマダイ稚魚が生
産されています。しかし、不飽
和脂肪酸が水面にあると
空気をうまく取り入れる
ことができません。

このことから、アワビ
の病気は多数あり、歴史
的に抗生物質等の薬剤が
比較的用意されています
が、食品なので、使用が
限られています。
そして、最も小さな感
染源であるウイルスが種
苗生産では一番難敵です。
魚類では病原となるウイ
ルス研究が進み、防疫対
策が進められている種
類もあり、また、一部、ワ
クチンも開発されていま
す。

このことから、アワビ
の種苗生産では、飼育水
を紫外線殺菌灯で照射し
た海水を使用することで
ウイルスからの感染を防
ぐことが必要です。
神奈川県栽培漁業協会
の種苗生産施設は、紫外
線照射した海水で飼育す
る施設がありませんので
今後整備する施設には、
是非とも必要となります。

このことから、アワビ
の種苗生産では、飼育水
を紫外線殺菌灯で照射し
た海水を使用することで
ウイルスからの感染を防
ぐことが必要です。
神奈川県栽培漁業協会
の種苗生産施設は、紫外
線照射した海水で飼育す
る施設がありませんので
今後整備する施設には、
是非とも必要となります。

この先生の水産研究所
は、神奈川県へ昭和四十
五年に勤めてから訪ねま
していましたが、相当年季が入
った施設で、古びた模型や
パネルがありました。
この水産研究所の山下
金義さんと西塚隆さんが
マダイの人工種苗生産に
挑戦し、昭和三十六年に
マダイの稚魚七匹を作り、
観音崎の多々良浜へ六匹
を放流したのが日本で人
工種苗を放流した最初の
出来事でした。

この先生の水産研究所
は、神奈川県へ昭和四十
五年に勤めてから訪ねま
していましたが、相当年季が入
った施設で、古びた模型や
パネルがありました。
この水産研究所の山下
金義さんと西塚隆さんが
マダイの人工種苗生産に
挑戦し、昭和三十六年に
マダイの稚魚七匹を作り、
観音崎の多々良浜へ六匹
を放流したのが日本で人
工種苗を放流した最初の
出来事でした。

放流種苗にも 防疫対策が 必要



栽培漁業で自然界への
放流は、健康で安全な種
苗が必要です。

人間社会では、今年に
入って新型コロナウイルス
感染症で緊急事態宣
言が出され、日常生活
を変えざるを得ない状
況です。

卵や精子を通して感染す
るものです。
水産生物では、種苗生
産や養殖の過程で問題が
生じる場合が多くありま
す。高い密度で飼育しな
ければ採算が合わないの
で、できるだけコストを
下げようとすると、どう
してもいろいろな病気と
の闘いとなります。病原
虫として大きなものは寄生
虫で、ブリやサケの養殖
では、大きな課題となっ
ています。次に細菌によ

る病気は多数あり、歴史
的に抗生物質等の薬剤が
比較的用意されています
が、食品なので、使用が
限られています。
そして、最も小さな感
染源であるウイルスが種
苗生産では一番難敵です。
魚類では病原となるウイ
ルス研究が進み、防疫対
策が進められている種
類もあり、また、一部、ワ
クチンも開発されていま
す。

このことから、アワビ
の種苗生産では、飼育水
を紫外線殺菌灯で照射し
た海水を使用することで
ウイルスからの感染を防
ぐことが必要です。
神奈川県栽培漁業協会
の種苗生産施設は、紫外
線照射した海水で飼育す
る施設がありませんので
今後整備する施設には、
是非とも必要となります。

このことから、アワビ
の種苗生産では、飼育水
を紫外線殺菌灯で照射し
た海水を使用することで
ウイルスからの感染を防
ぐことが必要です。
神奈川県栽培漁業協会
の種苗生産施設は、紫外
線照射した海水で飼育す
る施設がありませんので
今後整備する施設には、
是非とも必要となります。

この先生の水産研究所
は、神奈川県へ昭和四十
五年に勤めてから訪ねま
していましたが、相当年季が入
った施設で、古びた模型や
パネルがありました。
この水産研究所の山下
金義さんと西塚隆さんが
マダイの人工種苗生産に
挑戦し、昭和三十六年に
マダイの稚魚七匹を作り、
観音崎の多々良浜へ六匹
を放流したのが日本で人
工種苗を放流した最初の
出来事でした。

この先生の水産研究所
は、神奈川県へ昭和四十
五年に勤めてから訪ねま
していましたが、相当年季が入
った施設で、古びた模型や
パネルがありました。
この水産研究所の山下
金義さんと西塚隆さんが
マダイの人工種苗生産に
挑戦し、昭和三十六年に
マダイの稚魚七匹を作り、
観音崎の多々良浜へ六匹
を放流したのが日本で人
工種苗を放流した最初の
出来事でした。

この先生の水産研究所
は、神奈川県へ昭和四十
五年に勤めてから訪ねま
していましたが、相当年季が入
った施設で、古びた模型や
パネルがありました。
この水産研究所の山下
金義さんと西塚隆さんが
マダイの人工種苗生産に
挑戦し、昭和三十六年に
マダイの稚魚七匹を作り、
観音崎の多々良浜へ六匹
を放流したのが日本で人
工種苗を放流した最初の
出来事でした。

栽培漁業って何(28)

公益財団法人
神奈川県栽培漁業協会
専務理事 今 井 利 為

マダイの種苗
生産の歴史

神奈川水産試験場
のマダイ種苗生産技術開
発

私が学生の頃、魚病学
の教授は、四電安正博士
でした。この先生は、水
族館で飼育している魚に
しばしば発生する白点病
を発見した人でした。
戦前、上海の海洋研究
所に勤め、戦後、神奈川県
水産研究所と博物館の館
長を勤めた方です。
魚病学の講義は、澤瀉
久隆の魚病原論とデカル
トの方法序説と言う分け
の分からない哲学の話で
具体的な魚病の技術論は
なかつたと記憶していま
す。

この先生の水産研究所
は、神奈川県へ昭和四十
五年に勤めてから訪ねま
していましたが、相当年季が入
った施設で、古びた模型や
パネルがありました。
この水産研究所の山下
金義さんと西塚隆さんが
マダイの人工種苗生産に
挑戦し、昭和三十六年に
マダイの稚魚七匹を作り、
観音崎の多々良浜へ六匹
を放流したのが日本で人
工種苗を放流した最初の
出来事でした。

この先生の水産研究所
は、神奈川県へ昭和四十
五年に勤めてから訪ねま
していましたが、相当年季が入
った施設で、古びた模型や
パネルがありました。
この水産研究所の山下
金義さんと西塚隆さんが
マダイの人工種苗生産に
挑戦し、昭和三十六年に
マダイの稚魚七匹を作り、
観音崎の多々良浜へ六匹
を放流したのが日本で人
工種苗を放流した最初の
出来事でした。

この先生の水産研究所
は、神奈川県へ昭和四十
五年に勤めてから訪ねま
していましたが、相当年季が入
った施設で、古びた模型や
パネルがありました。
この水産研究所の山下
金義さんと西塚隆さんが
マダイの人工種苗生産に
挑戦し、昭和三十六年に
マダイの稚魚七匹を作り、
観音崎の多々良浜へ六匹
を放流したのが日本で人
工種苗を放流した最初の
出来事でした。

この先生の水産研究所
は、神奈川県へ昭和四十
五年に勤めてから訪ねま
していましたが、相当年季が入
った施設で、古びた模型や
パネルがありました。
この水産研究所の山下
金義さんと西塚隆さんが
マダイの人工種苗生産に
挑戦し、昭和三十六年に
マダイの稚魚七匹を作り、
観音崎の多々良浜へ六匹
を放流したのが日本で人
工種苗を放流した最初の
出来事でした。

この先生の水産研究所
は、神奈川県へ昭和四十
五年に勤めてから訪ねま
していましたが、相当年季が入
った施設で、古びた模型や
パネルがありました。
この水産研究所の山下
金義さんと西塚隆さんが
マダイの人工種苗生産に
挑戦し、昭和三十六年に
マダイの稚魚七匹を作り、
観音崎の多々良浜へ六匹
を放流したのが日本で人
工種苗を放流した最初の
出来事でした。

この先生の水産研究所
は、神奈川県へ昭和四十
五年に勤めてから訪ねま
していましたが、相当年季が入
った施設で、古びた模型や
パネルがありました。
この水産研究所の山下
金義さんと西塚隆さんが
マダイの人工種苗生産に
挑戦し、昭和三十六年に
マダイの稚魚七匹を作り、
観音崎の多々良浜へ六匹
を放流したのが日本で人
工種苗を放流した最初の
出来事でした。

この先生の水産研究所
は、神奈川県へ昭和四十
五年に勤めてから訪ねま
していましたが、相当年季が入
った施設で、古びた模型や
パネルがありました。
この水産研究所の山下
金義さんと西塚隆さんが
マダイの人工種苗生産に
挑戦し、昭和三十六年に
マダイの稚魚七匹を作り、
観音崎の多々良浜へ六匹
を放流したのが日本で人
工種苗を放流した最初の
出来事でした。

この先生の水産研究所
は、神奈川県へ昭和四十
五年に勤めてから訪ねま
していましたが、相当年季が入
った施設で、古びた模型や
パネルがありました。
この水産研究所の山下
金義さんと西塚隆さんが
マダイの人工種苗生産に
挑戦し、昭和三十六年に
マダイの稚魚七匹を作り、
観音崎の多々良浜へ六匹
を放流したのが日本で人
工種苗を放流した最初の
出来事でした。

この先生の水産研究所
は、神奈川県へ昭和四十
五年に勤めてから訪ねま
していましたが、相当年季が入
った施設で、古びた模型や
パネルがありました。
この水産研究所の山下
金義さんと西塚隆さんが
マダイの人工種苗生産に
挑戦し、昭和三十六年に
マダイの稚魚七匹を作り、
観音崎の多々良浜へ六匹
を放流したのが日本で人
工種苗を放流した最初の
出来事でした。

この先生の水産研究所
は、神奈川県へ昭和四十
五年に勤めてから訪ねま
していましたが、相当年季が入
った施設で、古びた模型や
パネルがありました。
この水産研究所の山下
金義さんと西塚隆さんが
マダイの人工種苗生産に
挑戦し、昭和三十六年に
マダイの稚魚七匹を作り、
観音崎の多々良浜へ六匹
を放流したのが日本で人
工種苗を放流した最初の
出来事でした。

この先生の水産研究所
は、神奈川県へ昭和四十
五年に勤めてから訪ねま
していましたが、相当年季が入
った施設で、古びた模型や
パネルがありました。
この水産研究所の山下
金義さんと西塚隆さんが
マダイの人工種苗生産に
挑戦し、昭和三十六年に
マダイの稚魚七匹を作り、
観音崎の多々良浜へ六匹
を放流したのが日本で人
工種苗を放流した最初の
出来事でした。

この先生の水産研究所
は、神奈川県へ昭和四十
五年に勤めてから訪ねま
していましたが、相当年季が入
った施設で、古びた模型や
パネルがありました。
この水産研究所の山下
金義さんと西塚隆さんが
マダイの人工種苗生産に
挑戦し、昭和三十六年に
マダイの稚魚七匹を作り、
観音崎の多々良浜へ六匹
を放流したのが日本で人
工種苗を放流した最初の
出来事でした。

神奈川漁港めぐり・・・シリーズ⑧

第1種「金田漁港」

— 多種多様な魚を首都圏に出荷 —



地域漁業の拠点、金田漁港

金田漁港は、三浦半島の東部に位置し、対岸に千葉県房総半島をみて、東向きに開いた金田湾の南部にあり、魚市場には多種多様な魚介類が水揚げされ、首都圏に出荷されています。

漁港施設については、昭和四十九年度から基本的な防波堤、護岸などの外郭施設の整備が始まりました。その後、漁港漁場整備長期計画でさらに、漁港の静穏度の向上と同漁港を利用する漁船の係留のための外郭施設や荷捌所、直売所、製氷・冷凍・冷蔵庫などが充実整備され、地域漁



金田魚市場



金田海業センター

同漁港を拠点に行われている漁業は、大・小型定置網、サバ釣り、刺網、タコ壺、ワカメ養殖などの沿岸漁業が主です。このため、鮮度抜群の多様な魚介類を首都圏などの消費地に出荷しています。また、定置網が獲るイワシ類をカツオ一本釣り船の生き餌として販売している漁業者もいます。

昭和六十二年からは、「金田朝市」が始まっています。水揚げされた生きたのいい鮮魚などの販売が評判を呼び、三浦市だけでなく市外からも消費者が詰めかけるほどです。さらに、平成三年度には「金田海業センター」がオープンしました。その二階では魚介類料理を提供しています。



藻場回復の兆し

藻場回復の兆し

藻場回復の兆し

藻場回復の兆し

磯焼け 回復の兆しか



幼稚園児がカサゴ稚魚を放流

幼稚園児がカサゴ稚魚を放流

幼稚園児がカサゴ稚魚を放流

釣りフェスティバル2020 幼稚園児がカサゴ稚魚放流

日本釣用品工業会は、「LOVE BLUE」事業の一環として釣りフェスティバルを行い、その開会式が行われたパシフィック横浜裏の臨港パークで地元の幼稚園児により五百尾のカサゴ稚魚が放流されました。

放流に先立ち当協会の今井利為専務は、「種苗放流は、水産資源を持続的に利用する一つの方法です。豊かな海を維持し、自然環境の保全・回復を図りましょう」とあいさし、子どもたちは、小さなバケツに入れてもらったカサゴの稚魚を放流しました。

また、この放流式に引き続き、横浜市鶴見区の大黒ふ頭に四千五百尾のカサゴ稚魚が放流されました。同フェスティバルを記念し、合計五千尾のカサゴ稚魚が放流されたことになりました。

藻場回復の兆し

藻場回復の兆し

藻場回復の兆し

藻場回復の兆し

三浦半島沖に大規模養殖施設誘致

引き続き、資源管理型栽培漁業推進事業も

三浦半島沖に大規模養殖施設誘致

引き続き、資源管理型栽培漁業推進事業も

神奈川県漁連 県産味付ノリ「潮あそび」

神奈川県漁連は、県産ノリに付加価値を付けて販路拡大を目指すとして、初の味付のり「潮あそび」の販売を始めています。

冬になると水温が大きくなる同県の東京湾沿岸では、古くから「江戸前海苔」が生産され、肉厚で味と香りの良さが喜ばれる神奈川県の特産でした。

そのノリ生産を支援しようと、神奈川県漁連は「焼きのり」の製造・販売を続けていますが、今度は、「焼きのり」を8等分し1パック50枚入りの味付のり「潮あそび」を販売しています。

編集後記

和食は最も健康食といわれ、それを支えているのがDHAやEPAが多量に含まれている水産物だといえます。だが今、魚介類を獲っている漁業者、流通・加工・販売をしている水産関係者に大きな痛手を与えています。特に、高級な魚ほど販売価格が暴落し、例えば三崎魚市場に水揚げされているキンメダイですが、

国民の外出自粛で、宿泊施設や飲食店などからの注文が途絶え、魚介類の需要が激減したためだといわれています。海を豊かにし、国民にその恩恵を受けてもらうと水産種苗の生産・放流に力を入れている協会も、新型コロナウイルス感染症問題の沈黙化を願わずにはいられません。

令和二年度神奈川県主要背骨・予算

三浦半島沖に大規模養殖施設誘致

引き続き、資源管理型栽培漁業推進事業も

令和二年度主要施策および当初予算の概要を発表しました。二年度では、三浦半島沖の相模湾に誘致を計画している新規大規模外洋養殖事業導入を検討する協議会を設立することとしています。また、今年度も引き続き、放流した種苗の一部を親として育て、次の資源につなげる資源管理型栽培漁業推進事業にも取り組むこととしています。

このほか、藻場やアマモ場の造成・回復を目指す漁場

新型コロナウイルス感染症問題

新型コロナウイルス感染症問題は、子どもたちが楽しみにしている稚魚の放流イベントの大半を中止にしています。

昨年六月中に実施した荒崎海岸のヒラメ、腰越漁港のヒラメとメバル、佐島漁港のトラフグ、金沢漁港のメバルとヒラメが今年中止になりました。昨年七月に行った平塚市漁港、新宿漁港のヒラメも今年中止です。また、横須賀市海辺釣り公園でのメバル種苗放流は中止だそうです。昨年八月の小田原漁港でのマガイ、本牧海釣り施設のクロダイ、九月に行われた横浜ベイサイドマリナーのマガイ、小網代湾内のマガイ種苗放流は調整中です。芦名漁港のカサゴは中止ですが、腰越漁港のマガイ、十月の予定の荒崎海岸のカサゴ種苗放流は調整中だそうです。